審判上の注意事項

- 1. 投手(救援投手も含む)の準備投球は初回に限り7球以内1分以内。次回からは3球以内30秒以内。
- 2. 攻守交代はかけ足で行なうこと。特に外野手は注意すること。
- 3. 攻守交代時に最後のボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻ること。
- 4. 内野手間の転送球は一回りとし(状況によっては中止することもある)、最後にボールを受けた 野手は定位置から速やかに投手に返球すること。
- 5. 投球を受けた捕手は速やかに投手に返球し、返球を受けた投手は速やかに投手板を踏んで、捕手からのサインを受けること。
- 6. 投手のインターバルが無用に長かったり、無用な牽制球が度を過ぎると審判員が判断したら、 遅延行為として投手に"ボーク"を課すことがある。
- 7. 打者はみだりにバッターボックスを離れないこと。ボックス内でサイン等を見ること。
- 8. 次打者はサークル内で投手の投球に合わせて、スウィングのタイミングを取る行為を厳禁する。
- 9. 監督またはコーチ等が1試合に投手の所へ行ける回教は3回以内とする。なお、タイブレーク 延長戦の場合は2イニングに1回とする。
- 10. 守備側のタイムで捕手または内野手が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。なおタイブレーク延長戦の場合は2イニングに1回とする。野手(捕手も含む)が投手の所へ行った場合、そこへ監督またはコーチが行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とする。
- 11. 攻撃側のタイムは1試合に3回とする。タイブレーク延長戦の場合は2イニングに1回とする。
- 12. タイムは1分以内を限度とする。但し審判員が認めた場合はこの限りではない。
- 13. 守備側からのタイムで試合を中断した場合、その間に投手は捕手に対して投球練習はできない。
- 14. 代打者(代走者)の通告は氏名と共に、背番号を球審に見せ、その旨を告げること。
- 15. 本塁打の走者を迎える場合は、ペンチ前のみとする。
- 16. 相手チームや審判員に対する聞き苦しい野次は厳禁する。
- 17. トラブルの際、審判員や相手側プレイヤーに手をかけることを厳禁する。万一このような事態が生じたときは退場を命じる。
- 18. 審判員の裁定に対する抗議は禁ずる。但しルールの解釈上の問題については認める。